

嬉らっ子みんなで育てよう

元気な奈良に「家庭教育啓発リーフレット」



小学1年生
の保護者の
皆さまへ

家庭教育7か条

- 1 あいさつをする習慣をつけさせよう
- 2 決めた時刻に寝る習慣をつけさせよう
- 3 身の回りの片付けをする習慣をつけさせよう
- 4 手伝いをする習慣をつけさせよう
- 5 してよいこと、してはいけないことをしっかりと教えよう
- 6 家族で会話をする機会を増やそう
- 7 友だちと外で遊ばせよう

家庭教育のポイント!!

健康な体をつくろう

奈良県は、全国に比べて、朝食を毎日食べている子どもの割合が低い。

→ 朝ごはんをしっかり食べるためには、早く起きて朝の時間に余裕をもたせることが大切です。



学びに向かう心を育てよう

学びに向かう心は、物事に挑戦しようとする、自己規制、好奇心、人にかかわる力など学びの基盤になるものです。

幼児期に集中して遊んだり、興味をもって質問したりする経験を多くもっている子どもほど、小1で勉強が終わるまで集中して取り組める子どもの割合が高い。

●小1で勉強が終わるまで集中して取り組んだのは、●

幼児期の集中・興味・質問の経験	とても多かった（254名）	65.2%
	まあ多かった（254名）	64.7%
	あまりなかった（254名）	44.4%

幼児期に集中・興味・質問をした経験が「とても多かった」子ども（小1）の中で勉強が終わるまで集中して取り組んだのは、65.2%であった。

※全国学力・学習状況調査（2012）の結果から導出

子育てコラム

生活リズム

1日を元気に過ごすためには、まず、早く起きてしっかり朝ごはんを食べることが大切です。

朝食をとることにより、体にエネルギーを補給し、それをもとにして一日のやる気や集中力が高まります。

早起きをするためには、早寝をしなければなりません。最近では、遅くまで起きているために朝起きられず、登校に支障をきたす子どもが少なくありません。親としては、できるだけ子どもが早寝できるように環境を整えたいものです。



毎朝朝ごはんを食べよう
（朝ごはんを食べると元気になります）
というメッセージです。



奈良県立教育研究所 教育研究部 教育企画課
TEL: 0744-33-8902 FAX: 0744-33-8909

基本的な生活習慣を
身に付けましょう。

健康な体

外で元気に
遊びましょう。



あいさつを
しましょ

決めた時間に
寝ましょ

身の回りの
片付けを
しましょ



基本的な生活習慣を低学年から身に付けることで
毎日の生活リズムが整い、元気な体をつくります。



スッキリ目覚め、元気な1日
をスタートさせましょう。

友だちと外で
遊びましょ

親子と一緒に
遊びましょ



四年生や五年生の子とも園生の遊びを大切にしま
しょ。自然の中には、様々な出会いや発見があ
ります。

外遊びで基本的な
運動能力が育ちます。



育てよう

子どもは考えることで、さらに、
好奇心・興味が促されます。

子どもはほめられると、
自信・やる気が育ちます。



「子ども自身に考えさせる」大人の促し方が多いほど、
「文章・画・図表」「学びに向かう力」は伸びます。

「お手伝い」をしたら、できたこと目をみてほめ
ましょ。身の回りのことを自分でできるという
自信が育ちます。

家族で会話を
しましょ

親子と一緒に
遊びましょ



お手伝いを
しましょ

ルールを
守りましょ



学びに向かう心

子どもに考えさせるような
言葉をかけましょう。

自己肯定感を
育みましょう。



元気ななっ子を育てるために・・・大切にしたいのは、「健康な体」と「学びに向かう心」
健康な体になると、学習に対して前向きになります。

健康な体は、生きていく土台をつくること

① 基本的な生活習慣を身に付けましょう

幼児期～小学校低学年で身に付けた習慣がその後の習慣を決定します。

② 外で元気に遊びましょう

外遊びで基本的な運動能力が育つだけでなく、自然の中でたくさんのお出会いや発見があります。

「健康な体」と「学びに向かう心」は、家庭での親子の良好なコミュニケーションの中で育まれます。

学びに向かう心は、学習の土台となる意欲・態度をつくること

③ 自己肯定感を育みましょう

子どもは、大人からがんばりを認められると、自信ややる気が出ます。自分のことが好きな子どもが育ちます。

④ 子どもに考えさせるような言葉をかけましょう

子どもの疑問や好奇心に対して、すぐに答えを出したり、無視したりするのはなく、「どうしてかな」「調べてごらん」というような考えさせる言葉掛けが大切です。



家庭教育啓発リーフレット「ならっ子みんなで育てよう」 ガイダンスペーパー

1 はじめに

家庭教育は、それぞれの家庭で行われる教育であり、すべての教育の出発点です。この教育によって、子どもは生きるための基礎的な資質や能力を培い、人格を形成していきます。しかし、近年、社会の急激な変化の中、十分にその機能を果たせない現状にあります。

このリーフレットは、幼児期から小学校低学年の間に是非育んでほしい内容を盛り込んでおり、子育てのヒントとなるよう構成されています。小学1年生の担任が、このリーフレットを、保護者と共に子どもたちのことを語り合ってくださいとお願いし、活用していただきたいと思います。



2 内容について

(1) 家庭教育7か条

- ① あいさつをする習慣をつけさせよう
- ② 決めた時刻に寝る習慣をつけさせよう
- ③ 身の回りの片付けをする習慣をつけさせよう
- ④ 手伝いをする習慣をつけさせよう
- ⑤ してよいこと、してはいけないことをしっかりと教えよう
- ⑥ 家族で会話をする機会を増やそう
- ⑦ 友だちと外で遊ばせよう

この「家庭教育7か条」には、「あいさつ」「基本的生活習慣」「手伝い」「規範意識」「コミュニケーション」「体力」の項目について、家庭において大切にしていきたいことを掲載しています。この7つの内容は、幼児期から学童期の間において、子どもに身に付けさせたい、あるいは、保護者として子育てのヒントとして参考にしていきたいこととなっています。

(2) 「健康な体」と「学びに向かう心」とは

義務教育の入り口となる小学1年生の時期に、幼稚園・認定こども園・保育所等との滑らかな接続を意識することにより、その後の学校生活をスムーズに送ることができます。幼児期で育ててきたことを大切に小学校につないでいくことが大切です。

「健康な体」・・・生活リズムを整え、適度に外遊びをすることで、運動能力も高まり、健康な体がつくられます。健康な体が育まると、学習や活動に対しても前向きで意欲的になります。

「学びに向かう心」・・・子どもが学びに対して意欲的になるためには、「なぜだろう」という好奇心を育てることが大切です。子どもの疑問に対して、大人が子どもに考えさせるような言葉掛けをすることが大切だと言われてい

ます。また、愛情豊かな環境の中で、認められる、ほめられる経験を多くもつことも自己肯定感を高めるために大切です。

3 活用について

このリーフレットは、学級懇談会等で、以下のような時に御活用ください。

- (1) 保護者が子育てに悩んでいる時
- (2) 保護者から子育ての相談を受けた時
- (3) 個人懇談会の中で子育てについて話題にするきっかけとして
- (4) 学級懇談会の中で子育てについて話題にするきっかけとして



4 活用例について

具体的なリーフレットの活用について、小学1年生の担任の先生が懇談会等で活用する際のヒントとなるように事例を掲載しています。参考にしてください。

(事例1) 保護者同士が話し合いながら、深めていく方法

(事例2) ロールプレイング等の手法を使いながら、深めていく方法

<事例1> 学級懇談会での活用例

	時 間	内 容
つかむ	5分	1 保護者が日ごろの子育てで感じている課題の明確化を図る。 ホワイトボードや付箋やワークシート等に、日ごろの子育てで困っていることを書いてもらい、参加者で子育てにおける課題を共有してもらう。
深める	15分	2 リーフレットを活用して、家庭教育の重要性について保護者に考えてもらう。 ①リーフレット裏面を活用して、奈良県の子どもの教育課題について考える。 健康な体をつくろう *朝食の摂取率のグラフ(全国比較) ・朝食を摂取することで、得られる効果について伝える。 ・基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて自覚を促す。 *子育てコラム「生活リズム」 学びに向かう心を育てよう ・学習意欲の低さが、奈良県の子どもの教育課題であることを保護者に知らせる。 ・学びに向かう心は、幼児期の生活とも強く結び付いており、 これから先の学習に向かう構えをつくることを保護者に知らせる。

		<p>②リーフレットの見開きページを活用して、家庭教育を行う際のポイントや注意点、効果について理解する。</p> <p>健康な体をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本的な生活習慣の定着 • 外遊びの奨励 <p>学びに向かう心を育てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 思考力を育む働きかけ • 自己肯定感や自己有用感の育成
	20分	<p>3 自分の子どもが抱えている課題を解決するために、有効なアプローチは何か、またそのアプローチをするためにどのような言葉かけや工夫があるかを保護者同士ペアで意見交流をしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1回の交流は5分。活動はペアを交代しながら3セット行う。(5分×3セット)
まとめる	10分	<p>4 全体で、懇談会の感想を共有してもらう</p>

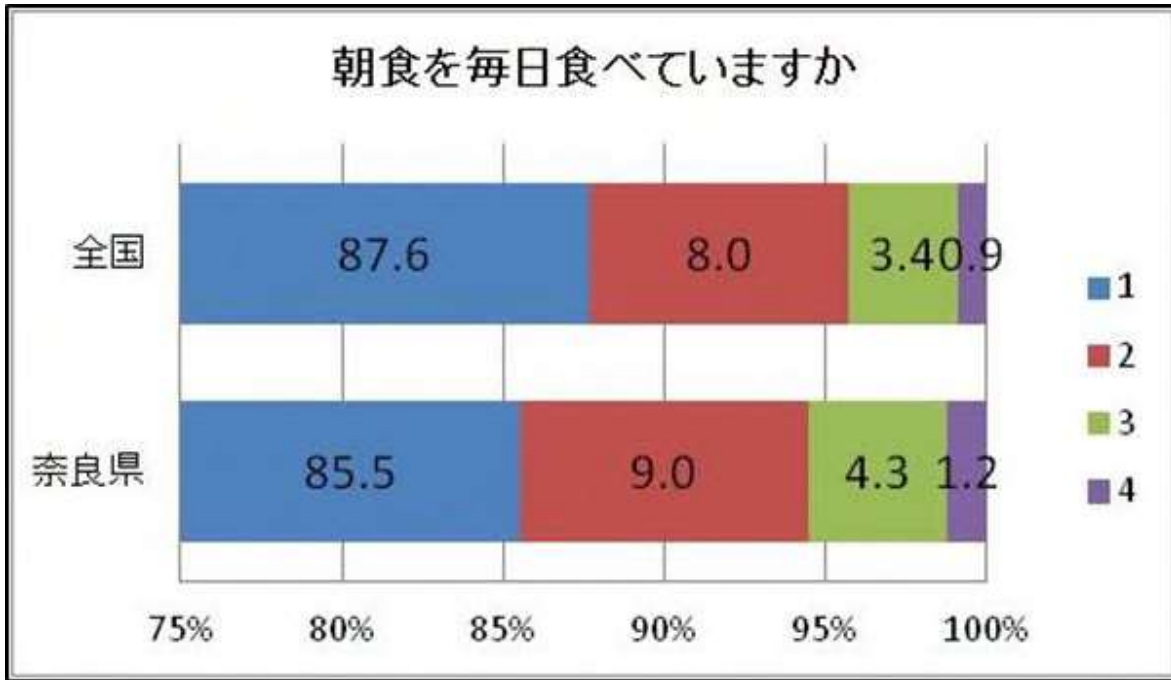
<事例2>学級懇談会での活用例

	時間	内容
つかむ	5分	<p>1 チェックシート7項目(資料2)をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自己紹介等しながら、自分がチェックした項目について感想を述べ、今、子育てで困っていることを全体の中で共有する。
深める	15分	<p>2 リーフレットを活用して、家庭教育の重要性について保護者に考えてもらう。</p> <p>①リーフレット裏面を活用して、奈良県の子どもの教育課題について考える。</p> <p>健康な体をつくろう *朝食の摂取率のグラフ(全国比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 朝食を摂取することで、得られる効果について伝える。 • 基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて自覚を促す。 *子育てコラム「生活リズム」 <p>学びに向かう心を育てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習意欲の低さが、奈良県の子どもの教育課題であることを保護者に知らせる。 • 学びに向かう心は、幼児期の生活とも強く結び付いており、これから先の学習に向かう構えをつくることを保護者に知らせる。

		<p>②リーフレットの見開きページを活用して、家庭教育を行う際のポイントや注意点、効果について理解する。</p> <p>健康な体をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本的な生活習慣の定着 • 外遊びの奨励 <p>学びに向かう心を育てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> • 思考力を育む働きかけ • 自己肯定感や自己有用感の育成
	20分	<p>3 ロールプレイングをすることで、子どものやる気ができるような言葉かけについて考える。</p> <p>母親役と子ども役になって考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • お手伝い編（資料） • 生活リズム編（資料）
まとめる	10分	<p>4 全体で、懇談会の感想を共有してもらおう</p>

資料 1

うちの子の生活習慣は大丈夫？



全国学力学習状況調査（H27）の結果から抜粋

グラフ中の凡例は（1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない）を示す

子どもといっしょに取り組みましょう！

低学年のうち、大人も一緒に行い、慣れてきたら、見守ってあげましょう。

チェックシート

あいさつをしましょう

あいさつする気持ちよさを感じさせていますか？

きめたじかんにねましょう

子どもが寝る前には、寝やすい雰囲気をつくっていますか？

じぶんのみのまわりのあとかたづけをしましょう

大人が自分から整理整頓を心がけていますか？

おてつだいをしましょう

できたことをしっかりとほめてあげていますか？

ルールをまもりましょう

大人が進んでルールを守ろうとしていますか？

かぞくのひととはなしましょう

食事の時や家族団らんの時に子どもの話を聞いていますか？

そとであそびましょう

子どもと一緒に外遊びを楽しんでいますか？

●他にどんな取組ができますか？